

令和7年度八幡市地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

八幡市は、京都と大阪の中間に位置し、大消費地に隣接するという立地条件を活かして、水稻・野菜・茶・果樹等を生産し、都市近郊複合経営の形態をとっている。

水田は全耕地面積の79%を占め、田の区画整備済面積割合は67%となっている。農家一戸当たりの水田面積は55.5aと零細で、かつ、分散保有形態であることと、担い手農家の不足や従事者の高齢化から、土地の高度利用や機械化等の地域的な取組が不十分な状況である。

担い手農家については、収益性の高い集約的農業への転換を一層促進するとともに、個別の担い手だけでなく生産組織への農地利用集積を通じてその育成を図っていくことが重要である。

このような状況の中、集落では就労者のサラリーマン化による専業農家の減少と兼業化が進み、集落としての組織機能の低下が危惧されている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

収益力強化については、個人で生産物販売をしている生産者もあるが、高品質で収益性の高い生産を行うため、集団化した取組を推進していく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

耕作放棄地が拡大しないように水田台帳等を用いて定期的に点検すると同時に、国や京都府から提供される米等の受給情報等を基に、需要に応じて特別栽培米や高収益なブランド京野菜を含む地域振興作物の作付けを推奨する等、水田の有効利用を推進していく。

地域における水稻作付け水田と転換作物作付け水田のブロックローテーションの構築については、八幡市での営農形態を踏まえると、極めて困難と思われるが、その可能性の検証を引き続き行っていく。

また、水稻(水張り)を組み入れない作付け体系が数年以上定着し、畑作物のみを生産し続けている水田がないか、今後も水稻作に活用される見込みがないか等の点検を行い、その結果を踏まえ、畑地化支援を活用した畑地化・団地化の取組を推進する。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

安全・安心でおいしいお米を生産する等、化学成分由来の窒素が少ない肥料を使用し、適期に病害虫防除の為に薬剤散布を行い、また、その薬剤散布回数を定めるなど、こだわり米や特別栽培米の栽培条件に対応した作付けを推奨する。

(2) 非主食用米

加工用米や新規需要米、新市場開拓用米について、需要に応じて作付けを推進する。

(3) 高収益作物

八幡市域では、野菜の一大産地を目指し、ブランド京野菜を含む様々な野菜が栽培されており、なす、小松菜、きゅうり、ほうれん草、ねぎ、トマト、万願寺とうがらし、大豆、伏見とうがらし、かぼちゃ、いちご、はくさい、さといも、れんこん、ごぼう、えだ

まめ、ブロッコリー、オクラ、なばな(はなな)、えびいも、こかぶ、しそ、みず菜、だいこん、にんじんを中心に栽培面積の拡大を推進する。

さらに、ねぎ、小松菜、なす、トマト、きゅうり、ほうれん草、万願寺とうがらし、えびいも、みず菜、菊菜、はくさい、なばな(はなな)については、高収益品目として担い手農家の積極的な面積拡大を支援するとともに、協同作業を進めながら農業機械や施設の共同利用を推進していく。また、大豆、伏見とうがらし、かぼちゃ、いちご、だいこん、にんじん、バラ、トルコギキョウについても地域で必要な品目として担い手農家が栽培するのを支援する。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位 : ha)

作物等	前年度 (R6) 作付面積等		当年度 (R7) の 作付予定面積等		令和 8 年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	200.9		200.9		200.0	
備蓄米						
飼料用米						
米粉用米						
新市場開拓用米						
WCS 用稲						
加工用米	0		0		0	
麦						
大豆	0.5		0.5		0.6	
飼料作物						
・ 子実用とうもろこし						
そば						
なたね						
地力増進作物						
高収益作物	69.7		69.7		68.7	
・ 野菜	66.7		66.7		65.3	
・ 花き・花木	1.6		1.6		1.8	
・ 果樹	1.4		1.4		1.6	
・ その他の高収益作物						
その他						
・						
畑地化						

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標		
				前年度（実績）	目標値
1	野菜・花き （ねぎ、小松菜、なす、トマト、きゅうり、ほうれん草、万願寺とうがらし、伏見とうがらし、かぼちゃ、いちご、はくさい、さといも、れんこん、ごぼう、えだまめ、ブロッコリー、オクラ、なばな（はなな）、えびいも、こかぶ、しそ、みず菜、菊菜、だいこん、にんじん、すいか、ピーマン、パプリカ、きやべつ、たまねぎ、じゃがいも、さつまいも、レタス、青さやいんげん、さやえんどう、やまのいも、ながいも、シロナ、とうもろこし、ズッキーニ、かぶ、モロヘイヤ、みぶな、トルコギキョウ、キク、コギク、バラ、葉ボタン、菜の花、ユリ、ストック、ヒマワリ）	地域振興作物 助成	作付面積の拡大	（令和6年度） 45.1ha	（令和8年度） 45.1ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：京都府

協議会名：八幡市農業再生協議会

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	地域振興作物助成	1	10,000	別紙のとおり	作付け面積に応じて支援

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇（二毛作）」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携）」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携・二毛作）」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細（個票）の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細（個票）の具体的な要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

(仮配分額 4,870,000 円) ÷ (R8 転作目標 4,510a) × 10 a ≒ 10,798 円 ⇒ 10,000 円 (交付単価は 10 a あたり千円単位のため)

8 産地交付金の活用方法の明細

1. 地域農業再生協議会名

八幡市農業再生協議会

2. 活用予定額の総括表

(単位：円)

協議会等名	配分枠 (A+B)			活用予定額
		当初配分 (A)	追加配分 (B)	
八幡市農業再生協議会	4,870,000	4,870,000		4,510,000

(注) 追加配分が未定の段階にあっては、該当箇所を空欄により作成することとします。

3. 活用方法

配分枠																					
4,870,000 円																					
整理番号	使 途 ※ 1	作 期 等 ※ 2	単価① (円 /10a)	面 積 （a 単位）※ 3																所要額 ① × ② (円)	
				戦略作物							新市 場開 拓用 米	そば	なたね	地力 増進 作物	高収益作物				その他		合計 ② ※5
				麦	大豆	飼料 作物	米粉 用米	飼料 用米	WCS 用稲	加工 用米					野菜	花き ・花木	果樹	その他 の高収 益作物			
1	地域振興作物助成	1	10,000											4,457	53				4,510	4,510,000	
合計（基幹）※ 4			実面積											4,457	53				4,510	※6	
合計（二毛作）※ 4			実面積																	4,510,000	

※ 1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇（二毛作）」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携）」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携・二毛作）」と記入してください。

※ 2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※ 3 「面積」は、当初配分により支援を行う使途について記入し、追加配分により支援を行う使途については、追加配分額が未定の段階にあっては空欄としてください。

※ 4 「合計（基幹）の実面積」は、基幹作を対象とした設定の実面積を記入し、「合計（二毛作）の実面積」は、二毛作を対象とした設定の実面積を記入してください。

また、「合計②」欄は、基幹作、二毛作それぞれの実面積の合計を記入してください。

※ 5 ②の合計は、各使途の合計面積を記入してください。

※ 6 所要額欄の二重枠には、所要額の合計を記入してください。

（注）使途ごとに「産地交付金の活用方法の明細（個票）」を添付してください。

4. 追加配分等を受けた場合の調整方法

追加配分があった場合、整理番号 1 の単価を+10,000 円/10 a を上限として、千円単位で調整する。
減額調整があった場合、整理番号 1 を千円単位で調整する。

5. 所要額が配分枠を超過した場合の調整方法

・所要額が配分額を超えた場合、以下のとおり千円単位で単価の調整を実施する。

交付単価=計画単価×調整係数(調整後の単価は、千円未満切捨て)

調整係数=配分額÷所要額(各計画単価×各交付対象面積)の合計(小数点以下第 5 位まで算出。第 6 位以下切捨て)

6. 高収益作物について

注 1 産地交付金で支援する作物のうち、高収益作物に該当する作物名(野菜、花き・花木、果樹除く)を記載してください。

注 2 収益性のわかるデータを添付してください。

産地交付金の活用方法の明細（個票）

協議会名	八幡市農業再生協議会			整理番号	1	
使途名	地域振興作物助成					
対象作物	野菜・花き【基幹作物】（別紙のとおり）					
単 価	10,000 円/10 a (追加配分の配分額に応じて 20,000 円/10a を上限として単価を増額調整する)					
課 題	八幡市は、京都と大阪の中間に位置し、都市近郊型複合経営という形態をとって野菜等を生産しているが、大消費地からの需要が多く、安定的に野菜及び花きを供給する必要がある。					
目 標			令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
	作付面積の拡大	目標	45.0ha	43.9ha	43.9ha	43.9ha
		実績	43.6ha	45.1ha		
内 容	八幡市農業再生協議会が指定した地域振興作物を販売目的で作付けした水田に助成。					
具体的要件	○ 助成対象者 経営所得安定対策等実施要綱に規定された販売農家又は集落営農。 ○ 助成対象水田 経営所得安定対策等実施要綱別紙 1 に定める水田。 ○ 複数回の作付けは 1 回のみの助成とする。					
取組の 確認方法	○ 助成対象者 水田基本台帳の農業者台帳との照合。 ○ 助成対象水田 水田基本台帳の筆台帳との照合。 ○ 作付の確認 現地確認による。 ○ 販売の確認 販売伝票等で確認する。					
成果等の 確認方法	令和 8 年 1 月に交付対象面積を集計。					
備考	支援年限は設定していない。					

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。

(別紙)

ねぎ	小松菜	なす	トマト	きゅうり	ほうれん草	万願寺とうがらし
伏見とうがらし	かぼちゃ	いちご	はくさい	さといも	れんこん	ごぼう
えだまめ	ブロッコリー	オクラ	なばな (はなな)	えびいも	こかぶ	しそ
みず菜	菊菜	だいこん	にんじん	すいか	ピーマン	パプリカ
きゃべつ	たまねぎ	じゃがいも	さつまいも	レタス	青さやいんげん	さやえんどう
やまのいも	ながいも	シロナ	とうもろこし	ズッキーニ	かぶ	モロヘイヤ
みぶな	トルコギキョウ	キク	コギク	バラ	葉ボタン	菜の花
ユリ	ストック	ヒマワリ				